

(國務大臣及説明員退席)

其ヨリ委員間ノ協議ニ入り各員ヨリ意見ノ開陳アリ
結句本案ハ此ノ儘可決スルキ旨日全會一致ヲ以テ議決
シ審査報告ノ作成ハ委員長一任ニ決ス
仍テ鈴木委員長開會ヲ宣ス

(午後四時閉會)

大學學部等、在學年限又ハ修業年限ノ臨時短縮
ニ關スル件外一件第一回審査委員會

昭和十六年十月六日(月曜日)本院事務所
於テ開會

出席者

原 議 長

審査委員長

鈴木 副議長

審査委員

權
密
院

清水 顧問官

南 顧問官

奈良 顧問官

荒木 顧問官

菅原 顧問官

松浦 顧問官

林 顧問官

二上 顧問官

眞野 顧問官

伊澤 顧問官

國務大臣

東條陸軍大臣

橋田文部大臣

説明員

村瀬法制局長官

入江法制局参事官

宮内法制局参事官

荒木法制局参事官

宮本企畫院次長

今村陸軍中佐

高
野
院

高崎陸軍中佐
望月海軍少佐
菊池文部次官
永井文部省専門學務局長
有光文部書記官
北島拓務次官
野口拓務事務官
碓井朝鮮總督府事務官
堀江書記官長

諸橋書記官
高辻書記官

(午後一時三十分開會)

鈴木委員長開會ヲ宣シ當局大臣ノ説明ヲ求ム
橋田文部大臣及東條陸軍大臣ヨリ本案立案ノ
理由ニ付説明アリ
清水委員ハ一在學又ハ修業年限短縮ノ繼續期間
及二本案ニ因ル學力低下ノ防止方法ヲ問ヒ三在學
徵集延期制度ノ廢止ニ付當局ノ意圖スル所ヲ訊

シタルニ對シ(一)ニ付テハ東條陸軍大臣ヨリ作戰並ニ士官學校ニ於ケル生徒養成ノ關係上軍幹部要員ノ不足最モ顯著ナルハ昭和十七年下半期ヨリ同十八年上半期ニ亘ル期間ニシテ從テ本案ハ此ノ期間ヲ當面ノ目標トシ其ヨリ以後ニ付テハ情勢ノ推移ト照應シ本案運用ノ如何ヲ決定スベキ旨(二)ニ付テハ橋田文部大臣ヨリ休業期間ノ減廢、授業時間ノ増加、學科目ノ整理、講義内容ノ重點主義等ニ依リ學力低下ヲ防止セントスル旨(三)ニ付テハ東條陸軍大臣ヨリ目下考究シツツアルモ未ダ實行ノ如何ハ

確言スルニ至ラザル旨夫々答辯アリ

南委員ヨリ本案ヲ必要トスル事情ヲ問ヒ本案措置ヲ以テ充分ニ具ノ要請ヲ充シ得ルヤヲ訊シタルニ對シ東條陸軍大臣ヨリ本案立案ノ軍事的理由ハ最近ノ緊迫シタル國際情勢ニ對處シ軍幹部要員ヲ緊急ニ充員セントスルニ在リ而シテ現在豫想シ得ル情勢ニ於テハ本案措置ヲ以テ一應ノ目的ヲ達シ得ベキ旨日ノ答辯アリ次テ同委員ハ本案第一條第一項中「當分ノ内ナル用語ハ從來屢々濫用セラレ學校當向者ヲ無用ニ不安ナラシムル虞アルニ由リ

具體的用語ヲ用フルヲ可トストシ當句ノ所見ヲホメ
タルニ對シ東條陸軍大臣、村瀨法制局長官及菊
池文部次官ヨリ「當分ノ内トハ國際情勢ノ緊急迫ニ
伴フ必要期間ノ意ニシテ必要止ミタルトキハ軍トシテ
ハ寧ロ舊態復歸ヲ希望シ從テ實際上濫用ノ
虞ナク學校當句者ノ不安ニ對シテハ克ク趣旨ノ
徹底ヲ圖リ之ヲ除去スルニ努ムマキヒ日ノ辯明アリ
奈良委員ヨリ軍幹部要員ノ充員ニ付量ト質ト
ノ關係ヲ訊シタルニ對シ東條陸軍大臣ヨリ量ノ増
加ニ應ジ質ノ低下ハ免レザルモ教育施設等ニ工夫ヲ

加ヘ軍幹部タルノ資質養成ニ努力スベキ旨答辯
アリ

荒木委員ヨリ醫科學生ノ臨床訓練ノ程度及軍
醫タルノ補充教育ノ有無ニ付質問アリ橋田文部大
臣ヨリ支那事變後ニ於テハ教授時間ノ繰合ニ依リ病院
勤務ヲ爲サレメ努メテ臨床訓練ヲ習得セシメツツア
ル旨、東條陸軍大臣ヨリ醫科學生ハ卒業後軍醫
學校ニ入學セシメ而ル後第一線ニ立タシメツツアルガ軍
醫ノ不足ニハ相當苦慮シツツアル旨夫々答辯アリ
菅原委員ヨリ緊急勅令ヲ以テ兵役法ヲ改正シ

タル前例ヲ問ヒ議會開會ヲ二月後ニ控ヘ茲ニ緊急
勅令ヲ立案シタル理由ヲ訊シタルニ對シ村瀨法制局長
官ヨリ前例トシテハ明治三十七年徵兵令中改正ノ件ヲ存
スル旨而シテ本案ヲ緊急勅令トシタルハ軍幹部要員
ノ急速充員ノ爲今日直ニ徵集手續ヲ開始スルヲ要シ通
常議會ノ開會ヲ待ツ能ハザルニ由ル旨夫々答辯アリ
鈴木委員長ハ本日ノ會議ハ之ニテ打切ル旨ヲ告ゲ
閉會ヲ宣ス

(午後四時四十分閉會)

大學學部等ノ在學年限又ハ修業年限ノ臨時短縮
ニ關スル件外一件第二回審查委員會

昭和十六年十月八日(水曜日)本院事務所
於テ開會

出席者

原 議 長

審查委員長

鈴木 副議長

審查委員

清水 顧問官

南 顧問官

奈良 顧問官

荒木 顧問官

菅原 顧問官

松浦 顧問官

林 顧問官

二上 顧問官

眞野 顧問官

伊澤 顧問官

國務大臣

東條陸軍大臣

橋田文部大臣

説明員

村瀨法制局長官

入江法制局参事官

宮内法制局参事官

荒木法制局参事官

宮本企畫院次長

今村陸軍中佐

高崎陸軍中佐

澤本海軍次官

望月海軍少佐

菊池文部次官

永井文部有専門學務局長

有光文部書記官

北島拓務次官

野口拓務事務官

碓井朝鮮總督府事務官

堀江書記官長

諸橋書記官

高辻書記官

(午前十時三十五分開會)

鈴木委員長開會ヲ宣ス

菅原委員ヨリ本案勅令第一條ニ關シ大學令第
十六條ヲ引用シタル事由ヲ問ヒタルニ對シ村瀨法制局
長官ヨリ大學ノ在學年限ハ大學令ノ他ノ條項ニ
依リ具ノ最小限度ハ定マレルモ現實ノ年限ハ右

第十六條ニ基ク學則ニ依リ始メテ確定スルヲ以テ本案ノ企圖スル效果ヲ直ニ實現セシメンガ爲茲ニ本條ヲ引用シタル旨答辯アリ

松浦委員ヨリ種々質問アリ即チ

- (一) 本案ニ依レバ大學學部及大學豫科又ハ高等學校ノ在學年限又ハ修業年限ハ夫々六月以内ヲ短縮シ得ルモ當否ハ兩者ヲ通ジ一年ノ短縮ヲ行フ意圖ナキカトノ質問ニ對シテハ橋田文部大臣ヨリ其ノ意圖ナキ旨

- (二) 徵集猶豫期間ノ短縮ニ依リ在學中徵集セ

ラルル者多數ニ上ルコトナキカトノ質問ニ對シテハ東條陸軍大臣ヨリ相當數ノ増加ヲ見ルベキモ徵集手續上ニ考慮ヲ拂ヒ入營時期ヲ延期セシムル等ノ方法ヲ採ルベキ旨

- (三) 本案勅令第一條中專門學校令第八條第一項ヲ引用セザル理由如何トノ質問ニ對シテハ村瀨法制局長官ヨリ右條項ハ文部大臣自身ノ權限ヲ内容トスルニ由リ之ヲ引用スルニ及バザリシ旨夫々答辯アリ

(休憩午前十時五十分乃至午後一時三十五分)

林委員ヨリ(一)本案ヲ九月ニ入り突如トシテ提案シ
タル理由如何(二)高等學校及大學豫科ニ付テハ修
業年限短縮ノ要ナキニ非ザルカトノ質問アリ(三)付テ
ハ東條陸軍大臣ヨリ本案措置ハ教育上ノ見地ヨ
リ努メテ之ヲ回避セントノ考慮ヨリ今日迄遷延ス
ルニ至リタルヒ日(三)ニ付テハ橋田文部大臣ヨリ年限
短縮ヲ當面ノ問題トシテ考慮シツツアルハ大學
學部ニ付テナルガ情勢ノ推移ニ依リ將來モ尚年限
短縮ヲ要ストセバ大學學部ニ於テセズ基礎教育
機關タル大學豫科又ハ高等學校ニ於テセシガ爲之

等ノ學校ノ修業年限モ短縮シ得ルコトト爲シタル
旨答辯アリ

二上委員ヨリ種々質問アリ即チ

(一) 學問ハ國防上ノ見地ヨリスルモ忽ニスベカラズ從テ本案
ノ目的ハ徵集猶豫ニ對スル變革ノミヲ以テ之ヲ
果シ軍ノ必要止ミタル後ハ再ビ學校ニ還リ從
前ノ在學期間ヲ經テ卒業セシメテハ如何トノ質
問ニ對シテハ東條陸軍大臣ヨリ徵集猶豫ノ
制限ノミヲ以テシテハ勞務上ノ需要ヲ充ス
ニ足ラザルノミナラズ卒業ニ至ラズレテ戰死ス

ル者ノ父兄ノ心情ニ察シ徵集猶豫ノ制限ト共ニ卒業期ノ繰上ヲ爲サントスル旨

- (二) 本案ニ依ルハ大學學部ニ於テ昭和十七年十月乃至同十八年四月ニ至ル期間一學年ガ重複スルコトナルベク其ノ際特ニ自然科學ノ學部ニ於テ大學ノ施設ニ支障ヲ來スコト無キヤトノ質問ニ對シ菊池文部次官ヨリ時間ノ配當講義ノ組合^セ設備ノ活用等ニ依リ支障ナキヲ期スル旨
- (三) 本案第一條中「當分ノ内トアルハ期間ヲ限定シ必要ニ依リ之ヲ延期^長スルコトシテハ如何トノ質問ニ對シテハ村瀨法制局長官ヨリ本案立案ノ精神ガ軍事上及勞務動員上ノ關係ニ出デタルモノナルヲ以テ其ノ必要期間ヲ豫定シ得ザル旨夫々答辯アリ

眞野委員ヨリ女子ニシテ本案措置ノ適用アル學校如何トノ質問アリ菊池文部次官ヨリ女子専門學校ハ本案ニ依リ女子高等師範學校ハ關係省令ノ改正ニ依リ孰レモ修業年限短縮セラルベキ旨答辯アリ

鈴木委員長ハ爾餘ノ質問ハ之ヲ次回ニ譲ルベキ旨

ヲ告ゲ閉會ヲ宣ス

(午後四時十分閉會)

樞
密
院

大學學部等ノ在學年限又ハ修業年限ノ臨時短縮ニ
關スル件外一件第三回審査委員會

昭和十六年十月九日(木曜日)本院事務所ニ於
テ開會

出席者

原 議 長

審査委員長

鈴木 副議長

審査委員

樞密院

清水 顧問官

南 顧問官

奈良 顧問官

荒木 顧問官

菅原 顧問官

松浦 顧問官

林 顧問官

二上 顧問官

真野 顧問官

伊澤 顧問官

國務大臣

東條陸軍大臣

橋田文部大臣

説明員

村瀨法制局長官

入江法制局參事官

宮内法制局參事官

荒木法制局參事官

宮本企畫院次長

今村陸軍中佐

樞密院

高崎陸軍中佐

澤本海軍次官

望月海軍少佐

菊池文部次官

永井文部省専門學務局長

有光文部書記官

北島拓務次官

野口拓務事務官

碓井朝鮮總督府事務官

堀江書記官長

諸橋書記官

高辻書記官

(午前十時開會)

鈴木委員長開會ヲ宣ス

伊澤委員ヨリ本案ノ内外ニ亘リ種々意見ノ開陳

アリ東條陸軍大臣夫々之ニ答フ

南委員ハ在學年限ノ短縮ハ動モスレバ「學而不思

ノ徒ヲ卒業セシムルコトト爲リ思想上注意ヲ要スル

コトナキカトノ質問ニ對シ橋田文部大臣及東條陸軍大臣ヨリ充分注意ヲ拂フベキ旨答辯アリ
菅原委員ヨリ徴兵検査不合格者ニ對スル再検査ニ付當否ノ所見ヲ訊シタルニ對シ東條陸軍大臣ヨリ目下國民兵役召集ノ途ニ付研究中ニシテ不日實質行ノ期ニ入ルベキ旨答辯アリ

松浦委員ハ當否大臣ニ對シ大學及大學豫科又ハ高等學校ノ在學又ハ修業年限ノ短縮ハ之ヲ通ジテ一年トスルコトナキ旨言明ヲ求メ橋田文部大臣ヨリ本案ハ通ジテ半年短縮ノ趣旨ヲ以テ立案

シタル旨、東條陸軍大臣ヨリ勅令案ノ現段階ニ於テハ文部大臣言明ノ通ナル旨答辯アリ

右終テ委員長ハ質問終了ト認メ大臣及説明員ノ退席ヲホム

(國務大臣及説明員退席)

其ヨリ委員間ノ協議ニ入り各員ヨリ意見ノ開陳アリ結局本案ハ勅令ノ條規ニ於テ檢討ヲ要スルモノナシトセザルモ本委員會ニ於ケル當否大臣ノ辯明モアルニ依リ此ノ儘可決セラレ然ルベキ旨全會一致ヲ以テ議決シ審査報告ノ作成ハ委員長一任ニ決ス

